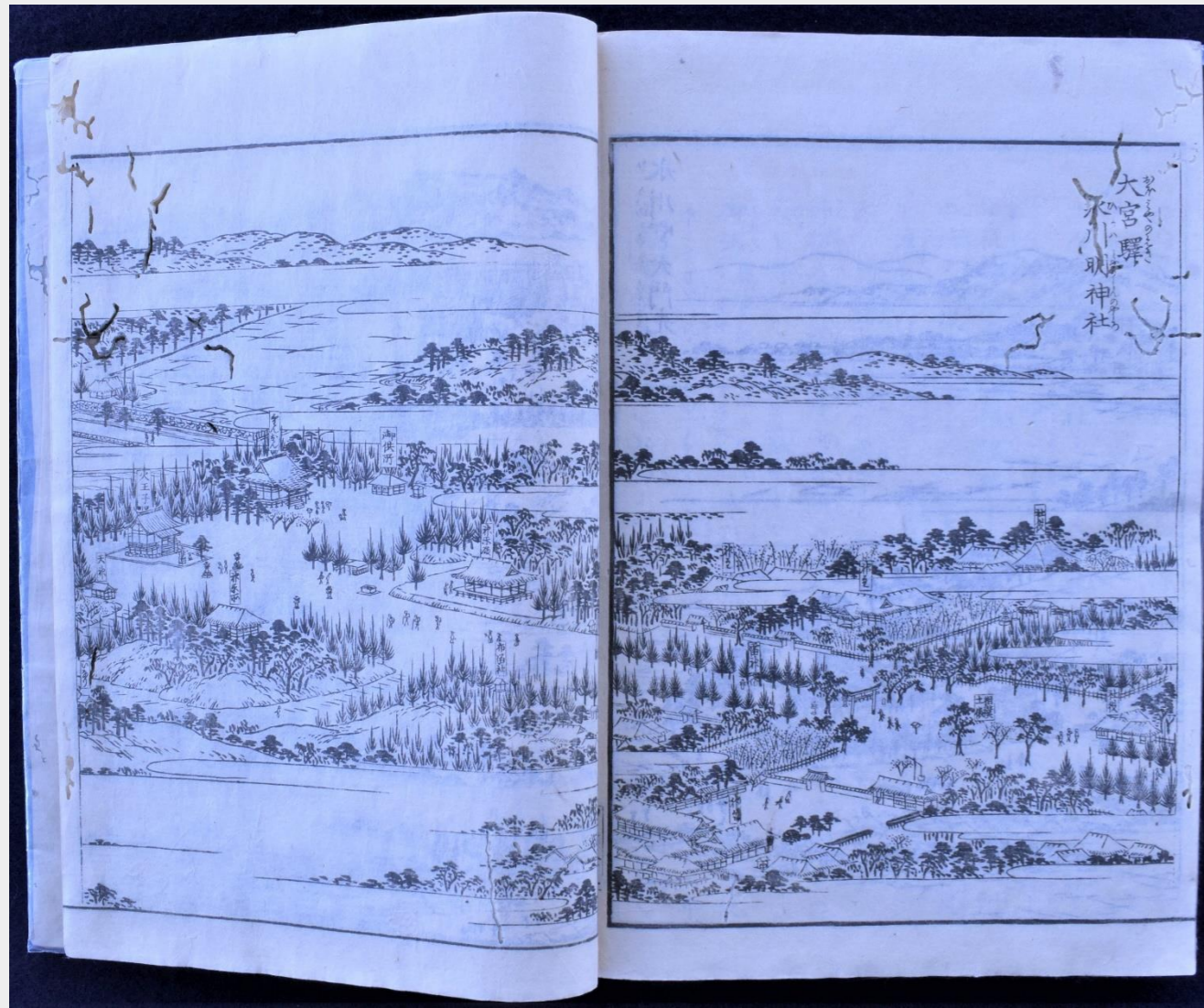


大宮という地名は、格式の高い武蔵国一の宮・氷川神社を「大いなる宮居」とあがめたことが由来といわれています。現在、大宮公園がある場所は、もともとアカマツや萩・ススキなどの原生林に覆われ、古代から氷川神社の「杜」でした。

明治に入ると、欧化政策を推進する政府は欧米のような公園を設置しようと、寺社の整理統合も兼ねて各地の旧寺社領の大部分を官有地としました。氷川神社境内地も、旧社領 8 万余坪(27 万 6000 m²)のうち、約 6 万余坪(19 万 8000 m²)が官有地となり、1885(明治 18)年 9 月に公園として開園します。当時の正式名称は「氷川公園」でしたが、「大宮公園」とも呼ばれていました。開園後、昭和の初期にかけて、東京や近郊から多くの人々が来園する公園として人気を集めました。その中には多くの文学者も含まれており、彼らの筆によって、大宮公園は作品の舞台としても様々に表現されてきました。



『江戸名所図会』より「大宮駅氷川明神社」1836(天保 8)年 (さいたま文学館所蔵)

参考文献

- 『大宮市史』第 4 巻 大宮市市役所 1982 年
- 『大宮文学散歩—ふるさとの面影—』大宮市立大宮西部図書館/編 大宮市教育委員会 1991 年
- 『企画展 大宮公園と文学者たち』さいたま文学館 1999 年
- 『古地図を楽しむ』埼玉県立文書館/編 埼玉新聞社 2008 年
- 『企画展 氷川神社と大宮公園 展示解説書』埼玉県立歴史と民俗の博物館 2015 年

2021 年 9 月 7 日
さいたま市立大宮図書館
さいたま市大宮区吉敷町 1-124-1
電話 048-643-3701



作家たちがみた大宮

(1)大宮公園と文学者たち

2021 年 9 月 7 日(火)~11 月 4 日(土)

1	書籍	『墨汁一滴』 正岡子規 著 1982(昭和 57)年刊行・14 刷 岩波書店	
2	新聞(写真)	「日本」 明治 34 年 6 月 16 日	国立国会図書館
3	冊子(写真)	『寒山落木』第 1 巻 正岡子規 筆 1898(明治 31)年	国立国会図書館
4	書籍	『漱石全集 第 25 巻』 夏目金之助 著 1996(平成 8)年刊行・初版 岩波書店 掲載文「正岡子規」	
5	雑誌(写真)	「ホトギス」 1908(明治 41)年 9 月号 ほととぎす発行所	国立国会図書館
6	絵葉書(写真)	「中山道大宮氷川公園萬松樓其七廣間」	武蔵一宮氷川神社
7	書籍	『荷風全集』第 1 巻 永井壯吉 著 1971(昭和 46)年刊行・2 刷 岩波書店 掲載文「野心」	
8	書籍(写真)	『野心』 永井荷風 著 1902(明治 35)年刊行・初版 美育社	さいたま文学館
9	書籍	『荷風全集』第 4 巻 永井壯吉 著 1971(昭和 46)年刊行・2 刷 岩波書店 掲載文「歓楽」	
10	雑誌(写真)	「新小説」第 14 年第 7 巻 1909(明治 42)年 7 月 春陽堂	国立国会図書館
11	書籍	『青年 改版』 森鷗外 著 2017(平成 29)年刊行・初版 岩波書店	
12	書籍(写真)	『青年』 森鷗外 著 1913(大正 2)年刊行・初版 昶山書店	さいたま文学館
13	雑誌(写真)	「スバル」 1910(明治 43)年 5 月号 昶発行所	さいたま文学館
14	書籍(写真)	『一日の行楽 東京近郊』 田山花袋 著 1923(大正 12)年刊行 博文館	さいたま文学館
15	書籍	『寺田寅彦全集』第 2 巻 寺田寅彦 著 1937(昭和 12)年刊行・初版 岩波書店 掲載文「写生紀行」	
16	雑誌(写真)	雑誌「中央公論」 1922(大正 11)年新年号 中央公論社	国立国会図書館
17	地図(写真)	「大宮町全図」 1933(昭和 8)年 埼玉県立文書館所蔵 埼玉県行政文書 昭 5832-4	埼玉県立文書館
18	書籍	『武蔵野探勝』 高浜虚子 編 1972(昭和 47)年刊行・2 刷 有峰書店	
19	書籍(写真)	『武蔵野探勝』 高浜虚子 編 1942(昭和 17)年刊行・初版 甲鳥書林	さいたま文学館
20	書籍	『人間失格 名著初版本復刻太宰治文学館』28 巻 太宰治 著 1992(平成 4)年刊行 日本近代文学館	
21	写真	「太宰治が通院していた時の宇治病院」	医療法人宇治病院

所蔵欄に記載がないものは、大宮図書館所蔵です

